



JAPAN FOUNDATION

クルト・ユルゲン・マース博士講演会

文化外交：外交におけるソフトパワーの可能性と限界

この20年間、対外文化政策は信じがたいほどの速さで変化を遂げています。これまで考えられなかったテーマが次々と誕生し、絶え間ない挑戦にさらされてもいます。果たして、われわれはどこへ向かおうとしているのか、外交政策の中におけるソフトパワーはどれほど有効なのか、あるいはソフトパワーの限界とは何か。このような状況においてドイツならびにEUの文化外交はどのように対応しようとし、また日本はどのように文化外交を進展させようとしているのか…。

ドイツのソフトパワー政策を担っている機関の一つであるドイツ対外関係研究所の事務局長を1998年～2008年の10年にわたり務めたクルト・ユルゲン・マース博士をお迎えし、文化外交についての講演会を開催いたします。当日は、渡辺靖慶應義塾大学教授にもご登壇頂き、マース博士のご講演内容についてコメント頂きます。ご来場のみならずとも活発な質疑応答を予定しておりますので、是非、ご参加下さい。

●ドイツ対外関係研究所 (Institut für Auslandsbeziehungen, ifa) について

世界の人々と文化が平和かつ繁栄して共存することに関与することを目的として設立された連邦政府外務省所管の機関。展示や対話、会議などを通じ芸術と文化交流を促進する活動を行っている。文化外交の中核機関として、市民社会、文化の実践、芸術、メディア、科学といった分野を通じて世界とドイツをつないでいる。また、国際文化関係づくりを主導し仲介し、記録を保管している機関。



基調講演：
クルト・ユルゲン・マース
ドイツ対外関係研究所元事務局長

1943年生まれ。ハンブルグ、ローザンヌ、ストラスブルグなどの大学で法律を専攻。ハンブルグ大学で博士号を取得。NATO議会会議、フンボルト財団、連邦政府教育省、ドイツ科学評議会での勤務を経て、1998年～2008年の10年にわたりドイツ対外関係研究所事務局長として活躍。テュービンゲン大学政治研究所の名誉教授でもある。専門領域は文化外交、ヨーロッパと中東との対話、危機予防。また、外交に関するコンサルテーションも行っており、ドイツでの文化外交論の第一人者。



コメンテーター：渡辺 靖
慶應義塾大学 環境情報学部 教授

1997年ハーバード大学で博士号を取得(社会人類学)。オックスフォード大学、ケンブリッジ大学の客員研究員などを経て、現在、慶應義塾大学環境情報学部教授。専門はアメリカ研究、文化政策論。2003～2004年に国際交流基金安倍フェローとしてハーバード大学ウエザーヘッド国際問題研究所に所属。2005年に日本学士院学術奨励賞受賞。2007年にケンブリッジ大学ダウニングカレッジフェロー。アメリカ学会理事、外務省「広報文化外交の制度的あり方に関する有識者懇談会」委員、「外交」編集委員、朝日新聞書評委員などを務める。単著に、『アフター・アメリカーポストニアン』の軌跡と文化の政治学(2004。サントリー学芸賞、アメリカ学会清水博賞)、『文化と外交：パブリック・ディプロマシーの時代』(2011)など。編著に『Soft Power Superpowers: Cultural and National Assets of Japan and the United States』(2008)など。

開催概要

日時／2013年9月19日(木) 18:30～21:00(18:00～開場)

※講演会終了後、交流会を予定。※講演は英語で行います。同時通訳(日・英)有

会場／国際交流基金JFICホール「さくら」〒160-0004 東京都新宿区四谷4-4-1

主催／国際交流基金

後援／駐日ドイツ連邦共和国大使館



定員／70名【先着順、無料】

お申込・お問い合わせ

下記のサイトより、ご氏名、ご所属、ご連絡先を明記の上、お申込下さい。

▶ www.jpff.go.jp/j/about/new/1308/08-02.html

国際交流基金情報センター

Tel／03-5369-6075

E-mail／jfic@jpf.go.jp

